

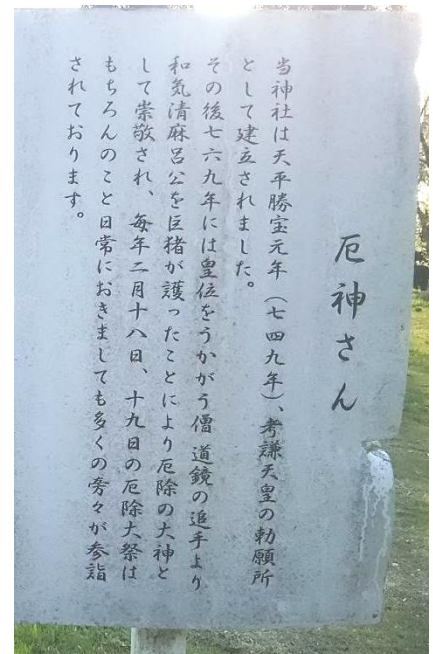
わけのきよまろ
和氣清麻呂ゆかりの「宗佐厄神」



2年次生の「日本史B」の学習は、そろそろ奈良時代に入った頃でしょうか？

古代より開けた播磨国・加古川には、第5号で紹介した古墳や第9号で紹介した「賀古^{かこのうまや}駅家」等様々な遺跡があります。また、寺社等宗教施設の中には、千年以上の時を越えて未だ現役のものもあります。

その1つが、「厄神さん」として親しまれている「宗佐厄神八幡神社」。749年に孝謙天皇の勅願所として創建、のち769年、称徳(=孝謙)天皇の信任を受けた僧・道鏡が皇位につくことの可否を問うため宇佐八幡宮(現在大分県)に向かう和氣清麻呂が、この神社境内で道鏡からの刺客に襲われた際、大きな猪が飛び出して刺客を蹴散らしたことで難を逃れ、大任を果たした(道鏡の天皇即位阻止)との伝承により、猪を出したこの神社を「厄除の大神」として崇敬する



ようになったということです。

以来「播磨三大祭り」の一つである2月18日・19日の「厄除大祭」には、毎年日本各地から30数万人の参拝者が訪れて賑わいます(6月末にも「夏越しの大祓」あり)。

宗佐厄神八幡神社HP等参照

ぶらり加古川第63号

平成30年6月

